



擁書樓日記
四

5756
4



擔書書格日記

四



文化十五年
四月
廿月
六月

門 又 6
5756
4

昭和十五年
高田早苗氏

擔書樓日記

文化十三年

四月 癸巳 大



○朔日南風おもしろく雨事の
 多きをいふがよしりあふ庚戌やがる大なる
 天おんこもまう金日とはる勝るもあは賢
 主村田のいもよがしとくふつうそん古
 澤知則ていさしきこころ井野石齋
 がいびりうをいさしきこころいさしき
 ころのいさしきこころいさしき

おそ梅をやらすらんぬるおまよつて
朝長高次まきりて

○二日曇朝長高次まきりて
のまきりていぬる鳥海まきりて
村田めきりぬるあり
全義解一冊三家名額折三
冊やしぬ

○三日晴朝長高次午の付
まのまきりていぬる岸本由良流が
よより白氏文集をかりぬる
つ高本何兵衛まきりて
運漕主事

おまきりていぬる

○四日晴太田佐吉まきりて
高本何兵衛まきりて

○五日晴岸本由良流片是寛えまきりて
まきりて

○六日雨風朝長高次まきりて
日のまきりていぬる

○七日晴太田佐吉屋代知賢主がまきりて
田中多忠古澤知則が
つて
い

○八日晴本多忠に徳朝臣のしるしを葉搦
の落葉一部をすめりて平由之 田中
多中へしるしをすめりてすめり

○九日曇中の時より雨ありしは荒井以謙
齋藤彦磨まきうづく古澤守子づくと
がよ由流のしるしをすめり

○十日曇晴不定朝よく浮木豊因づり
し女あつ河は師三好俊平山東京侍
山東京山せしきまてく

○十一日曇或晴おろりて酉のきりて

うしりて成の時ちりてまてりて地着る度
り由流がよしるしをすめりてこのしるし
おしりてやましるしをすめりてこのしるし
せしりてやましるしをすめりてこのしるし
やしりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし
ちりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし
たぎりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし
をすめりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし
のしるしをすめりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし
和蘭主のしるしをすめりてあつてそのしるしをすめりてこのしるし

清うくく人吉田長徹島海松亭りどを
同まどとぶらひし一かどあそびしりき

○十一日晴およしりて朝長尚次まきん
きつて三集解をよらん

○十三日晴暗和賢主の詩くふつてらん北川真
顔がもくしやうきこやう村田のて
子まの歌の常子いもあて兼題新樹
露を

あつち中のひよまをてのよほてこ
があらしよとえしげもてあを

忘燈をとくりて

田子つがらん少みえる意よまの採れ
たうあれきとむしりあひつり
ゆど山本正臣のともなひて伊嶋なる
位吉の社よましつ社類なるをの
こと

まもる山そのあぢいごすみのゆの
わづらうまうまふらん本同游清うまよ
し本朝奇跡一巻をとおも

○十四日晴或雨不定了阿法師まきん

○北日晴知賢主の好よりやうそてあ
○北日曇正木千幹のよきよりふか
やう

○北二日晴村田のそよよふつとらん

○北三日晴妻のぬれちも友をなむ古
深知助のよきよりあて大師河原ま
うぐよやうつりおれもあつてらん
のふしよかきわら石田島より宋史と
陰録表をとりん

○廿四日雨大田守のよきよりやうそてあ

○廿五日雨未の時よりこもあ岸本由流
山東京傳山本清後高宗彦舞をとりん
うぐ

○廿六日晴了のほれりよきよりらん
よき

○廿七日晴よりこもあつとらん
古澤母子大田佐吉高宗何名傳奉具
馨りよきよりよ

○廿八日晴島海茶のよきよりあて
大田守山東京傳山本正臣などよ

ひて北川真顔がめふく白氏文集と
よむ

○廿九日晴大田澤かり又つらもん正木千
幹島海茶山本正臣なまきり
岸平由豆流うらまらん台記万葉集
をよむつらものめく古はあきうらまふ
らひり

○晦日晴平由豆流がり又つらもん

五月 甲午 小

○朔日晴南風烈庚辰ぶつ天むん月くらし

くらしをよむきしや金田と伊勢磨子又為所
倉鶴陵よりかへり

○二日晴南風烈大田中孝止まらうつら平
由豆流なまきりうらまらん大鏡の夏
あそとかりつら賢主所是寛光かへり
うらまをよむ

○三日晴南風烈今日只風をけいしむは
申つらきしむらみんかへりうら
屋町の歌舞妓桐長桐座の芝居の梁を
よめふ長十五六同詩太ふらききよみん

吉原京町一町新海老屋の橋より火
ゆるりして青橋のゆるりたる燈火
龍泉寺
前のものゝ十五六のゆるり
秘知まんやけり
大門モリの外モリの五軒のゆるり
ゆるりよせゆるり
和賢主のゆるり

○四日晴南風烈矣犬橋長佐ある佐五右
歩の漸音法師なりきりてく島海茶平
由豆流村田のゆるり

○五日晴大田佐吉奉其齋きりてく

○六日晴岸を由豆流きりてく

○七日晴和賢主藤原三郎磨山東家傳大田
佐吉なりきりてく由豆流ゆるり

○八日雨北憶言ゆるりゆるり梅
花無尽蔵類聚三代格ゆるり

○九日晴和賢主のゆるりゆるり
ゆるり忠意朝臣のゆるり扶桑果
一函と、ゆるり教後国河村の陣屋ゆるり
三好常政のゆるりゆるり午の
時より由豆流ゆるりゆるり台記万葉集

かきとよしんかきあるいおはな子うら
よあよ

○十日晴知賢主の法よりきりそきり
了何法何三好係平山某多付まきりぞく
由豆法うもしきりし文おもあおきり

嶋崎律直きりきり
○十一日晴七ふ時よりあつあつ朝長あ
次きりきりきりきりきりきりきりきりきり
みりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

ふりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
七きりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
○十二日晴きりきりきりきりきりきりきりきり
あきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
あきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
北川真讀船名頼船船頼百樹片
寛光大橋某りきりきりきりきりきり
りきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

跋を清きしりやうしん

○十三日晴陰不定田舎に片曇り
まじりかきと独衣平ゆみの

○十四日雨知賢主の許へ源氏提安一舟
合柳古本一三舟之り大田重平より
河内名所記をわたり村田のこも子か
り独衣母子明律などわたり阿
比師よりさしふり古本重平より
そつして相屋叢話をわたり大田
佐吉よりわたり

○十五日陰晴不定井上信好よりいふ
小山田の園の由よりとよこらるるれこ
とよ信好より萬岩世稱は孫六下野国
宇都宮人といふよりいふやよよ
よ武蔵国多摩郡相連寺に阿弥陀佛の
背銘 百軒村

敬白治磨金銅影像法躰強陀座
光三尺扶奉為白皇中日本主辰當國
府居地頭名主御領田備安徳光
平信に法王子孫平安慈地成

そとあつゝいり大橋英長ひら

○十八日晴り少くもいしの島の放りしつは
景観をみれば後所はもと修す可き景
光なり

○十九日雨後因南原邸 川村の母尼
なるお井の節のきしやうしつうえん
平由豆流りしつゝいし台記万葉集
ひらどみてりり三好俊平よおちやれ佐
る佐おれまつゝいしとく集解一巻しを
ひら

○廿日陰晴不定向野大助板倉宗右衛
門大津又五郎小股七郎うり高平何
兵衛平介いし女又ま付より知賢
主しつゝいし平有由豆流りしつゝい
保元物記の平りやうら

○廿一日曇り午の付より高平景平(ま)
てきんを義朝をもよひ景平名は誠
字朝明をを陶景平といし山平景有
阿んえん今は上野谷中門の内なる観
成院子高良やうり由豆流りしつゝ

○廿二日晴 予醫主の行より一とある
この江家治分年可しむるに
是實光をえさん子あつ口の言ひ大
橋宗長より一とありし子位居左五
少つてしむるに全集解のふのましとお
るしむるに
去る一を五日の以より去所相の相
即少可しむるに城ありしと牛を白
屋よ人のあゆもるにさしあゆを
りまぎし婦女を好婚し行とな

るしむるに
まをりの同心 禁從の同心にむかひせし
けしむるに
衆人をめりしむるに
賊五千人をとりしむるに
なむ五千人ありしむるに
むしむるに
均やむるに
の堂とむるに
るふの儀は

榎コシキ嘉樹が伊勢方国一かこを

おと序

榎コシキ嘉樹は伊勢方国一かこを
つりまればまらうとありて此の月の伊勢
のうかれとこぞありきまよまのやれ
其ある氏は榎コシキ嘉樹の如
ちんぎとる此よりあつて西
やの西よりあつて西
つりまればまらうとありて此の月の伊勢
のうかれとこぞありきまよまのやれ
其ある氏は榎コシキ嘉樹の如
ちんぎとる此よりあつて西
やの西よりあつて西

おと序は伊勢方国一かこを
つりまればまらうとありて此の月の伊勢
のうかれとこぞありきまよまのやれ
其ある氏は榎コシキ嘉樹の如
ちんぎとる此よりあつて西
やの西よりあつて西
つりまればまらうとありて此の月の伊勢
のうかれとこぞありきまよまのやれ
其ある氏は榎コシキ嘉樹の如
ちんぎとる此よりあつて西
やの西よりあつて西

あやうぐ 桂をよめのみあはれ 柳を流歌
のよきしらわらえ人 柳子園の流り
是實光お暑のやんをら 柳を流歌
大橋英長あやれをらあみをみえ
よみあはれあはれ世人のたれをみえ
まふ梅をよの小慎をらあみをみえ
あやうぐあはれをらあみをみえ
さへはらわらえ 柳を流歌
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ

まなびあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ
あはれをらあはれをらあみをみえ

○

サ 四 時 子 女 福 祿 延 命 丹

りふせしをかねて ヒトハゴロモ 車衣の時とけり
鳥海若古沢若子 弘賢主のよもも
がよふ弘賢主大和国高取後の藤土内
藤四郎孝明が系圖とけりおきつり
唐本屋庄の大羽屋強七きつり
おきつりおきつり

うも州まきば 雪のけしき
まきばまきばの月面
山形志

そもいふもいふも世のまきば
まきばのまきばのまきば

秋野

まきばのまきばのまきば
まきばのまきばのまきば

○廿五日晴了何所所
山東京何れか
○廿六日晴申の付
らあま

先んきし三氏書録大ハ洲記リいもの如流

○廿七日晴片是見先んきし古今之性
の抄録ヤリ是服屋藤次ヤリこれ
アハハくあつて將軍家右大臣子西丹
大納言様兼右大およ侍ヤレたてし
忍即右代といし會津彦河越彦上
あり今月十五日参内の日ありしは將軍
家の即右代會津彦河越彦上ありしは家
老の京都も自裁ししはなれん今

夜丑の刻ぞうん子盗ありし第の甚所
みしりたりしをヤレたヤリしもの
つごよしうなぞししはげさなりしは
ちもころもいよそおのめ

○廿八日晴或雨不定大田守岸公出
流大橋英長島海相亭山東彦信
北川真顔ヤリしはつら
余の邸地を築く奉願清ハ諸事ある
王子稻荷の木の料理茶屋海老守
とるが家ハ武士の久きし西の

とく一社三日大橋英一長があらる 井上勢
廉語 ^社陸月のころよりよ何国^の藩師
そこよまもあてある山中よりいりしよ電
いどいづらあてゆるまはしむなつるまは
山の洞よりいりてやれいおこるよ身の張
一丈ありける白髪^の老翁 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
といふ ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
ふをいりてはげきこびは ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
らんよあやしのうぢ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
よげよとりよ藩師 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~

いかなるこゝともしきんといひ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
一橋大納言家 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
きり ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
年 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
い ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
途 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
き ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~
金 ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~ ^{あやしのうぢ} ~~あやしのうぢ~~

かりくちやひ子柱んたりとてしりあ
人なりかえはあま年とてしりあ
たげきいなりみしつばさぶあ子の知縣
ふましんせんさくもくしやせいあ
ありしむがそ際みさくし何と國あり
即代官江川太師左衛門尉の位所へ許け
るまろのふか證據ありてふいせのあ
ゆけよやうじはあがもくしあまの
まろしは證文よりてこととまろしは
まろしは證文よりてこととまろしは

しきん飲食を断て勤行し老翁の證書
をうむしよしとらんまろしは
まろしはちまろしはあまのあまの
まろしの書とて庭子にてあまのあまの
まろしはあまのあまのあまのあまの
今はあまの證書とたげきいし勤行
しりあまのあまのあまのあまの
まろしはあまのあまのあまのあまの
まろしはあまのあまのあまのあまの
まろしはあまのあまのあまのあまの

○廿九日晴浅草観音一まじりぐくわきの
ゆど大田佐吉高本伊兵衛ぐくくぶ
らひぐくぶぐくくあふあふ佐吉は余
があふあふぐくくまぐくく

六月二日大

○朔日陰晴不定己酉出日神ぐくく大ぐくく
天かんとくくく地史と江戸暦ぐくくあふ
ぐくく大田軍ぐくくぐくく氷をあぐくく
片屋寛光岸本由屋辰ぐくくぐくぐく
荒井一助朝長高次ぐくくぐく

○二日晴ぐくぐくあふぐくく

○三日晴井坂島子ふぐくく山本清後
村田のぐくく子片屋鶴後ぐくくぐく

○四日晴片屋鶴後村田のたぐくぐく
はぐくぐく片屋寛光岸本由屋辰ぐくく

ぐくく昌平坂の杉森子ぐくく子井坂島
子ぐくぐくあふぐくぐく本郷の茶あふ

ぐくぐくぐくく新ぐくぐくぐくぐくぐく
九つ時ぐくぐく駒江のぐくぐく火事ぐくぐ

○五日陰晴不定の者氣を長齋藤ぐくぐ

まきごとく申の時よりやういふやうに雷
電白雨あざくくしりりしづ神田龍田町
寺伊勢力屋といふ質屋の裏へ寄あちて
蔵をやがうしんあまのこころをいふを
女のおあやういふまふれつといふの聖堂
の後過（おぼろ）なる指の巾をいふをいふなりと
いふよとあま二人と途中をいふ道中を
いふしりりしりりしりりしりりしりりしりり

○六日晴る河法所まんとあまのまゝ代實
録曰本寺昔おぼろしりりしりりしりりしりり此

慎言村向のらあまのまゝ代實
ふつりりりり

○七日晴る景實まんとあまのまゝ代實
録曰

○八日晴る猿渡近にまきごとく桂川地蔵
記と本寺忠意朝臣の御まゝ代實
澤和則未詔云このまゝ代實の御まゝ代實
家の鉄の茶釜の形の桐葉の御まゝ代實の
らまの御まゝ代實の御まゝ代實の御まゝ代實
云道月屋町桐屋芝居の御まゝ代實の御まゝ代實

川神奈川こしりの杉山神社の神あり
その社を今は杉山大明神と云ふりしと云ふ
最末子所へ云ふたふた大杉大明神といふ
多なるまふ今~~の~~つらふいふまふ

○九日雨三井一高助まづ古伝子か
こしりか

○十日晴了阿比師湖音法師三好係平
まづぐく山業京付のまづぐくまづぐく
しと安齋随ふ鎌倉志目と云ふ物をか
一しむまづ

○十一日雨岸平由豆流三好係平村田の
多勢子知賢まづみ所くまづぐくまづぐく
瀬がまづぐく歌の伝草一枚おまづ

○十二日晴而雨片出見光平由豆流唐平
屋度八まづぐく

○十三日雨平由豆流~~流~~まづぐくまづぐく
○十四日雨朝よく齋藤屋平まづぐく相
まづ子合をまづぐく日のかまづぐく

○十五日雨或止溜池山王宮神事へ鳥海
相多朝長尚次まづぐく相多朝長尚次

年七月、日秋田城佐行右京大夫主馬
ざりしハ實はそゝの家流の執事とせん
そハ秋田領の地仙臺領よりひよる不
二空閑の地ありしと云ふ一三代以前の
城主の代子仙臺一割興一子其地多ハ
四五万石の上田となりたるをとりや加
せしむらんか一とよと厚く仙臺一
いしむししハ仙臺の城主更よしはまを
ざりし一軍をわたりし討取とせん
こむれ一軍の子配たむせられしとせん

天下争乱の甚しきとき家光の二三人を
せん試みせしむる二人とも腹切を
しかりしと云ふ又詔云今より十年たより
ちりし和泉橋通よある旗本
伊奈平十郎とせん承地千六百石
旗本流の家臣堤利兵衛とせん
忠練しん自裁しりしと云ふ
○十六日細雨、深川海邊大工町なる半三郎
未詔云四月廿八日御本丸と相模國の梅沢
の里に氷雨たりしと云ふ一ハ此をよし三四

銭目^{詩あり}とくしとせん又三^本月八日
の夜成の付をうり深川大橋と猿子橋よ
間なる元所とよありと細川隈本彦丸
藩士四人と秋元山形彦の藩士一人と喧
嘩を起し——秋元の子郎時子移るる細
川の士一人深みを負て死ぬるなりなり
しとありん事のももたらぐありと細川の士
は酔狂を極道し秋元の子は道理なる
がしつと細川の士危くええけしと同伴
のよ三人とありと秋元の子を討つとを

又詔^云昨日溜池山王の神輿をうりなす
とあり^{常盤}橋よりこれ石垣をうりてそを
の人をそをうりて——とありとありの国なる
お井常政がむらりやうそこありと中村伝
左衛門がうりつとそをうりて甲子なるをば
まいの大黒天まうりておのゝの時の時をの
りよ大子なるあり

○十七日陰或雨或晴齊藤康平と
やえん令義本朝續文粹をよむ荒居
一島共衛^能とありとありのりよとあり

狩森思の羊陶墓をのり子もつと一高
原彦房磨り久つとそん片倉鶴後
山東京傳よりうぐく小谷三思むし
やうそくしん富士の廣梨川若たどお
こちぬ

○廿一日曇式雨片倉鶴後山東京傳な
とまうしぐく

○廿二日晴夜もふるいしうしうしうし
四節多齋田中惣右衛門なとまうしぐく

○廿三日晴夜もふるいしうしうしうし

いぬ午の付しうしうしのんちもえやうしう

○廿四日曇式雨了阿佐時北慎言なと
まうしうしう慎言詔云

まうしうしうのぬしうしうしうしうしう
まらぬぬしうしうしうしうしうしうしう
しうしう今日いしうしうしうしうしうしう
ぬしうしうしうしうしうしうしうしうしう

又詔云

詔云しうしうしうしうしうしうしうしう

田佐吉岸本 由三流が御守りさきま
新く北博言のしとく 雲子 荒井永
係の新定 現 けい 新 詔の掛信を お
くると

御代 うけ あ も 方 も 書 の 一 た
多 つ て あ る や 思 ひ あ え し ん 鳥 海 系
詔 回 こ の 以 良 原 撰 軒 と 室 鳩 系 が 書 を
市 河 三 子 の り し や し こ の 鳩
系 と 駱 を 足 し と さ り し と 今 の
考 を も の 書 と お し ま す こ の い ふ こ と

腹 か つ て あ る こ の い ふ こ と な る こ の い ふ こ と
絶 倒

○ 廿 六 日 晴 鈴 木 与 叔 を 介 し て 是 者 中 見 舞
子 ら づ 町 名 主 序 岳 正 蔵 神 田 住 居 ○ 御 代 官
小 野 田 三 郎 右 衛 門 主 代 野 政 ○ 同 手 附 元
大 山 崎 新 次 郎 上 同 河 野 政 兵 衛 上 同
手 代 元 メ 服 部 市 郎 上 同 御 勘 定 吟 味 改 役
並 小 山 太 郎 左 衛 門 代 所 免 ○ 御 勘 定 奉 行
御 勝 手 掛 服 部 備 後 守 主 代 所 免 ○ 川
舟 政 久 須 美 六 郎 左 衛 門 主 代 所 免 ○ 川

○同手代、是野理兵衛上同 ○同川嶋貞兵衛
上同 ○即普請位元、四川用水方掛石川助
大夫 本所 ○町名主、荒居市郎助 本所 ○
即助定、但頭中川忠五郎主 本所 ○四川用
水方所普請位元、蓬見伴七郎上同 ○即
殿諾、即助定、但頭水野藤九郎主 同上 ○即
洞 即修造の字 ○即助定、吟味位、諸野忠四
郎主 同上 ○西丸御側御用取次、捲川相摸守
主、即用人、今江他助 小川 ○同古澤、又右衛
門上同 ○即從頭、神保新五右衛門主 小川 ○神

○同即用人、田中多忠上同 ○即助定、奉行
即勝手掛柳生主、膳正 主、飯田町 ○同即用人、是
本弥九郎上同 ○即助定、奉行、寺方掛柳
原鼻人正主 飯田町 ○即助定、但頭守屋
權之丞主 二番 ○即助定、吟味位、篠山十兵
衛主 二番 ○即助定、但頭、西野嘉内主
膳町 ○上川十知城主、杉平官内、方輔居、藩匠
望田隆氏 永田馬場 ○即代官、山田常右衛
門主 愛宕下天 ○即助定、奉行、寺方掛
曲淵甲斐守主 小井 ○即助定、但頭、矢

田垣喜左衛門主地鉄○町人松屋助右衛門
南馬町○山縣城主秋元左衛門佐君卿
 家小保七郎上屋敷○同留守居役杉本
 貞右衛門上同○同元大役大津又五郎上同日
 今よりあるものゝあつ今日もあつ常盤橋の
 石垣のくづれしあつとをりし一石橋の向え
 道三河原の方へりつたあつ石垣のむら
 井同をりしるど水井へくもあつこゝ
 山本清後りしむらとくもあつこゝ
 あつとくもあつ

○廿七日曇り或雨と教をりしりの日也
 ことあつしり即普請役和田常七郎下名中
 ○同荒垣止無衛下名二○同奈猪太郎上同○即
 勘定吟味役勝櫃兵衛主下名和泉○同来田
 嘉太夫主下名子堀○即勘定但頭井上三
 郎右衛門上同○即所信師屋師棟梁栗
 本守右衛門振岸三嶋○即普請役上條馬太
 郎岩中○秋元左衛門佐君卿用人河
 野大助下名池之端○同元大役板倉宗方宗方
 門上同○即勘定但頭村田義三郎主下名川

○同米倉田守左衛門主小田向○同中村長十
郎主牛に神樂○御勤定吟味役岸彦十郎
主新御午の時むらうよとあふりあふた
田佐吉片倉元周岸彦由豆流よりさぐ
大田守まじしよしやうそあうりのくま
古次子子片是寛光がうしよ

○廿一日陰或晴智瀬子評事一松おきあ
大田守岸彦由豆流古次知則片倉鶴
陵同岸之助田中忠右衛門かきうし
大田佐吉歌妓おあうしをぬきしむりめり

日与叔を暑中えあま申し御勤定
但頭輕部侍蔵主并御○御勤定御取箇
掛竹島菅右衛門主同知則語まあに
卒所廻香院へ大なる掃の墓碑を建
しうそふ卒所強勤寺よりま一人が
せらるやし町人の病よりんこいなめ
アけさうひつるごのくらげさび
~~あふ~~いふし福さまよしをむらふ年衆
あふしむらふよふらふあふん何ごの
料定をぬきやあやむとむらふ

その所れなる子猫が小判一ひよとてあ
とえらふやうにやうして枕をこもるは
現子小判一枚ありてふあやのりごと
りざしきまきごとまづしよのたひひよ
その小判しんくんとやあやあや
その一つまのなまの猫が小判三
枚とやうなまきしりまきあま
もしあまのまきあまのまき
うんいあまのまきあまのまき
あまのまきあまのまきあまのまき

三のうまごとつやうとあまのまき
らうまのまきあまのまきあまのまき
れ賃屋のまきあまのまきあまのまき
まきあまのまきあまのまきあまのまき
いそくまのまきあまのまきあまのまき
のまきあまのまきあまのまきあまのまき
てまきあまのまきあまのまきあまのまき
か一かまのまきあまのまきあまのまき
まきあまのまきあまのまきあまのまき
いあまのまきあまのまきあまのまき

大子おぼろふもいふるがごとくいふるがごとく
見えとぶらひし一板をぶらひし
此の板をたたくつと三枚のまゝ
己の板をたたくつと三枚のまゝ
七いづしとすゝ又十枚をたたくつと
うきとすゝて質屋にたたくつと
丙は己のつとすゝのほがけを
いづしとすゝ一板をたたくつと
質屋にたたくつとすゝ一板を
たたくつとすゝ一板をたたくつと
すゝ一板をたたくつとすゝ

純心七のそつとすゝ一板をたたくつと
すゝ一板をたたくつとすゝ一板を
大墓碑をたたくつとすゝ一板を
院をたたくつとすゝ一板を
大田守詔曰洲田河原子載つとすゝ
の葛飾の別業子建つとすゝ
下徳国也負孝三丙寅春国三月割利根
川西属武蔵国とすゝ一板をたたくつと
衛門主の請ふ国東即郡代役所の文書
を考たつとすゝ一板をたたくつと

くまのふん

○廿九日曇或晴大田守古澤知則がもとよ
にまをとおもたり大田守子歴朝詔詞
解をいしつと叔も中見舞子や
即勅定但頭服部専威主本所林町○川舟
改久頂美六郎左衛門主手附杉下九郎左衛
門川舟所割下内○秋元左衛門佐居家元岩田
彦助彦助中○同藏方掛役人坂事次郎
左衛門下登敷○同落合弥五左衛門上同
○同藩隠居井野石齋 越後国頸城郡

川浦の御陣屋なる杉井ハ高がしよりセ
うそこあり川浦は御代官行内新ハ高
の預片うしとて御陣屋に今まふ川村
とあつてをうしとて御陣屋に今まふ川村
やしとて川浦なるやとてし

○晦日陰或晴了り後雨まぐさしとあつ
荒井市亭助あつと

夏日舟行

かこいあつとものをたたくびふを
らんあそびや

うげいのみをばうめふみ
水のそとやあつたこころ

水世は枝

いそぎいんつり所まがーとみ
あつた今はとらひあつた
ふもやがう神をまがーとみ
まがーとみあつた



